

「〇」(わ) 2026年号
平成4年(1992年)11月創刊
令和8年(2026年)6月発刊
通刊第31号

編 者：武蔵大学剣友会
編 集：菅田雅人、赤尾嘉一、
桑原則行
発 行：武蔵大学剣友会

65周年記念《稽古会・懇親会》盛大に開催される 新入部員歓迎会も同時開催

穏やかな好天に恵まれ、鮮やかな新緑が眩しい4月25日(土)、コロナ禍を乗り越え、待望の65周年記念稽古会が大学体育館にて、懇親会が文京区のホテル機山館にて開催されました。今回の記念事業は、剣道部草創期に旧制武蔵の諸先輩から薫陶を受けられた世代の先輩方からの強いご要望と、現役学生たちの「先輩方から武蔵に伝わる精神を受け継ぎたい」との熱意が開催に向けた大きな動機付けでした。ご来賓をお招きする「祝賀会」ではなく、「懇親会」と銘打ちOBと現役だけの濃密な会合を開催するに至る原動力となりました。

加えて、ご参加下さった皆様はもとより、ご参加できなかった皆様方の物心両面のお力添えを頂いたからこそ実現できたものと、実行委員一同深く感謝申し上げます。

懇親会では、老若男女、若手OBや現役が、普段お会いすることのできない先輩方と歓談する、まさしく剣道部の歴史を語り継ぐ場が繰り広げられました。

先輩後輩同期で学生時代に戻り、昔話に花を咲かせて談笑されているお姿を随所で拝見するのは至福の時間でした。

また参加者全員で、新入生の入部を祝いつつ、剣道部の前途の活躍を祈念することもできました。長年にわたり「筆」の力で様々な貢献を頂いている矢倉先輩への感謝状授与、濱岡七段、中村六段への昇段祝いも披露させていただきました。

剣道部で代々歌い継がれてきた懐かしい歌を、「若手、現役に受け継いでほしい」との思いを込めて斉唱、岡田先輩の凜とした「弥栄」にて一次会は納められました。

今回ご欠席された先輩方は、過日ご郵送した記念誌から様々な思いを巡らせて頂ければと思いますし、掲載した写真にて雰囲気的一端でもお感じ頂けたら幸いです。







新入部員 女子 6 名



新入部員 男子 9 名





令和7年夏 福島合宿 ～地元での合同稽古も復活～

令和7年8月7日（木）～10日（日）、福島県二本松市の岳温泉にて夏合宿が行われました。

地元出身で剣友会の副会長を務める菅野先輩（S60 卒）より、「地方と中央とを結びつけ、昔の合宿を再現してはどうか」との熱い提案を受けた学生が、主体的に企画して福島合宿が実現するに至りました。

合宿の中、菅野先輩が指導する「福島県本宮支部」の稽古会に全員で参加させて頂き、以前は夏合宿で恒例となっていた地域の皆様との合同稽古も復活しました。

会場となる体育館に入ったとたん、「行くべ！全国」と揮毫された大きな横断幕が目飛び込んで来ました。

学生達はもちろん、参加した OB も、地域の皆様によるサプライズ歓迎に大感激、粋な計らいとご配慮を頂いた皆様方へ感謝の気持ちを胸に、まさに「交剣知愛」が身に染みる合同稽古となりました。

学生たちによる小中学生への指導稽古の後は、一般の方々も加わり総勢 90 名を超える合同稽古となり、地域の皆様方との交流は学生にとっても貴重な体験となりました。

翌日、合宿に参加された菅野先輩から学生に、「地元の方々から学生の皆さんへお褒めの言葉を頂いた」とのお言葉が披露されました。学生達が小中学生に丁寧に助言を送った地域交流の様子は、8月11日の地元紙にも大きく取り上げて頂きました。かつての伝統、「地元との交流」を伝える事も出来た有意義な夏合宿となりました。



(単位：円)

武蔵大学剣友会 2024年度会計報告	2023年度	2024年度							
	実績	予算	一般会計 実績①	予算対比	前年対比	第10回高校生錬成大会実績			合計①+② (剣道部除く)
						剣友会②	剣道部	計	
収入の部									
前年度繰越額	1,782,364	1,738,281	1,738,281	0	-44,083				1,738,281
口座振替年会費	775,000	830,000	814,000	-16,000	39,000				814,000
振込他年会費	40,000	50,000	214,000	164,000	174,000				214,000
預金利息	14	10	964	954	950				964
寄付金	0	0	100,000	100,000	100,000				100,000
高校生錬成大会参加費							431,000	431,000	0
剣友会費からの支援金							80,000	80,000	0
高校生錬成大会支援金						629,000		629,000	629,000
武蔵大学同窓会						10,000		10,000	10,000
当年度収入合計	815,014	880,010	1,128,964	248,954	313,950	639,000	511,000	1,150,000	1,767,964
収入の部合計	2,597,378	2,618,291	2,867,245	248,954	269,867	639,000	511,000	1,150,000	3,506,245
支出の部									
高校生大会支援金	80,000	80,000	80,000	0	0				80,000
高校生大会(西川先生、保険、賞品、お礼発送)剣友会費より支払い						106,498		106,498	106,498
高校生錬成大会費用(10回記念手拭含む)						393,800	100,801	494,601	393,800
現役援助金	200,000	200,000	200,000	0	0				200,000
夏合宿支援金	0	50,000	15,660	-34,340	15,660				15,660
監督年間交通費	80,000	80,000	40,000	-40,000	-40,000				40,000
監督会議費	5,000	5,000	5,000	0	0				5,000
鹿島神宮、香取神宮、「必勝祈願」初穂料他	45,380	30,000	10,000	-20,000	-35,380				10,000
卒業生 記念品 (垂ネーム)	18,120	20,000	35,200	15,200	17,080				35,200
卒業生 記念品 (写真他)	35,000	30,000	35,000	5,000	0				35,000
関根杯			25,275	25,275	25,275				25,275
関東学連登録料、東京学連登録料及び学連大会参加費他	149,000	146,000	146,000	0	-3,000				146,000
関東学連他剣道大会地方参加者交通費支援	15,000	30,000	10,000	-20,000	-5,000				10,000
機関紙「和」印刷、発送費用	0	75,000	85,635	10,635	85,635				85,635
昇段 記念品	0	20,000	20,000	0	20,000				20,000
慶弔見舞金	109,676	30,000	20,075	-9,925	-89,601				20,075
備品購入費用	0	120,000		-120,000	0				0
ゴルフコンペ、景品代	0	5,000		-5,000	0				0
(口座振替)明治安田システムテクノロジー取扱手数料	20,020	20,000	23,100	3,100	3,080				23,100
ホームページ管理料	66,000	66,000	66,000	0	0				66,000
O B会扱いO B連絡費他	0	10,000		-10,000	0				0
剣友会会費徴収促進費(郵送料等)			42,646	42,646	42,646				42,646
その他	35,901	5,000	30,143	25,143	-5,758				30,143
支出の部合計	859,097	1,022,000	889,734	-132,266	30,637	500,298	100,801	601,099	1,390,032
当年度収支	-44,083	-141,990	239,230	381,220	283,313	138,702	410,199	548,901	377,932
次年度繰越額	1,738,281	1,596,291	1,977,511	381,220	239,230	138,702	410,199	548,901	2,116,213
2025年6月30日現在預金内訳			① ↑			② ↑	剣道部預り		
みずほ銀行 渋谷中央支店	1,468,891		1,817,241			【感謝】2024年度収入の部			
三菱東京UFJ銀行 渋谷支店	59,707		39,289			①年会費納付のご協力依頼の実施効果；			
渋谷郵便局	204,243		204,243			前年比、年会費+213千円、寄付金+100千円			
現金	5,440		55,440			②第10回高校生錬成大会支援金；629千円			
6月末日残額合計	1,738,281		2,116,213	①+②		ご協力いただいた皆様へ感謝申し上げます！			

松森基金 2024年度会計報告

自2024年7月1日～至2025年6月30日

松森基金理事長 桑原則行

項目	実績額(円)	
収入の部		
前年度繰越額		1,009,219
預金利息	06.8.19	64
預金利息	07.2.17	377
小計		441
収入の部合計		1,009,660
支出の部		0
支出の部合計		0
次年度繰越額		1,009,660
2025年6月30日現在預金、現金内訳		
東京東信用金庫 四谷支店		1,009,660
合計		1,009,660

監査報告書

2024年7月1日～2025年6月30日の会計年度における当基金の収入、支出に関し調査した結果、正確であることを認めます。

麻生 周馬

65周年記念懇親会(稽古会)収支報告

多くの会員の皆様方からお力添えを頂き、ありがとうございました。

収入の部		
項目	金額(円)	備考
懇親会会費	820,000	@10,000
二次会会費	192,000	@4,000
寄付金	509,450	〇〇名の先輩方から頂いたご厚志
武蔵大学同窓会	20,000	祝い金
ノベルティ販売	94,000	マグカップ17個、Tシャツ20着
地酒販売	34,500	全国からお寄せいただいた地酒の販売
収入計①	1,669,950	
支出の部		
懇親会	792,000	
二次会	156,000	
ノベルティ	144,500	在庫；マグカップ34個、Tシャツ10着
記念誌印刷	254,650	
案内状、記念誌・アンケート発送費用	124,389	アンケートはご出席できなかった方へ発送
マグカップ発送費用	12,008	寄付を頂いた方々への返礼として
稽古会お茶、名札、振込手数料等	23,640	
支出計②	1,507,187	
剰余金①-②	162,763	剣友会口座へ充当

第11回 高校生剣道錬成大会

令和8年2月15日(土)、第11回高校生剣道錬成大会が開催された。

関東地区の強豪校に福島県からの参加校も加わり、男子32チーム、女子24チームから合計362名の高校生が武蔵大学に集結した。白熱したハイレベルの大会は、準備段階から現役が主体性をもって運営に当たり、多くの剣友会の皆様方も大会運営に携わっていただきました。多大なご支援、ご協力を頂き誠にありがとうございました。

参加選手の中から、本校への入学と入部を希望される生徒が更に増える事を切望します。



男子の部優勝 郁文館高等学校



女子の部優勝 淑徳須鴨高等学校

第56回 四大学運動競技大会(個人戦)

男子個人戦優勝！ (宮原蓮・1年生)

令和7年6月29日(日)、成城大学にて四大戦(個人戦)が行われた。

男子は1年生の宮原蓮が優勝、男子個人の優勝はH7年の宮本健司兄以来30年ぶり。

女子は2年生の朝倉心愛が3位に入賞、女子個人戦は武蔵大として5大会連続の入賞となった。



第36回 学連剣友剣道大会

令和7年12月7日(日)墨田区総合体育館にて、第36回学連剣友剣道大会が開催されました。

参加者は総勢1,119名にも及び、20歳代から80歳代までの出場者が、各年代毎に実践されている「生涯剣道」を披露する年末恒例の大会となっています。今回出場頂いた選手は次の通りです。(卒年)

第1部 倉島春太(R7)、金井将瑛(R6)、小川蒼太郎(R4)、高橋輝(H25)、田中将敬(H25)、今野英樹(H12)、戸賀崎正彦(H13)

第2部 濱岡一充(H2)、笹川敏広(S62)、鳥飼 貴(S60)、菅野昭浩(S60)

残念ながら今回は、第3部の先輩方のご都合が付かず、出場を果たせませんでしたが、R8年12月には男子1部から3部、そして念願の女子の部にも是非ご出場を頂きたく、ご参加をお待ちしております。



七段合格にあたって

濱岡一充（平成2年卒）



おかげ様で2026年2月に山梨県での審査において七段に合格させていただきました。
先日の65周年パーティーでお祝いを頂きましたが、その場ではご挨拶の機会が無く、本文にて改めて御礼申し上げます。
さて、ここに至るまでの紆余曲折を少々ご披露させていただきます。
私は指導教員もいない都立高校出身、大学時代も実力不足でレギュラー選手になれた記憶はありません。
それでも勤務先の銀行が実業団の強豪だったので、周囲に引っ張られながら2012年に46歳で六段に合格させていただきました。

その後仕事では支店長になりましたが激務が続き、2019年4月に52歳で関連企業に転籍した時期に体調を崩しました。
中でも頸椎から左腕にかけての痛みと痺れがひどく、大学病院では『変形性頸椎症』と診断され、ペインクリニックで痛み止めの注射を打つようになりました。

この体調では剣道は辞めざるを得なくなり、「もう一生剣道は出来ないだろう…」と思っておりました。

その後、整体治療や水泳等でリハビリを続けながら痛みや痺れが少し楽になった2021年・54歳の春頃、前年に転居した自宅近くの中学体育館から剣友会の稽古の音が聞こえて懐かしくなり、「子供の相手ぐらいなら…」と入会して剣道を再開しました。

当初は素振りをしたら首が痛くなり、切返しの元立ちを面で受ければ稽古後に寝込むような状況でしたが少しずつ体を慣らし、1年経ったころにはある程度は動けるようになりました。

すると私の体調をご存じの先生方からも「七段審査を受けないのか？」というプレッシャーがかかるようになり、「移動負担の少ない東京の審査だけで…」と2022年の11月から七段審査を受けることとしました。

ところが、その前から複数の資格試験に取り組んでいた私は、この時期総仕上げとして『行政書士試験』にも挑んでいました。

日程は『行政書士試験』が11月の第2日曜日、『七段審査（東京都）』はその数日後の金曜日や土曜日と続いたため、2022年と2023年は勉強と稽古の負担もあり双方とも不合格、更にその後しばらく体調を崩すことを繰り返しました。

失敗を重ねて「二兎追うものは…」のこのわざを痛感した私は、2024年からはまず『行政書士試験』のみに集中して4度目で何とか合格いたしました。

2025年からは、それまで勉強に割いていた時間やエネルギーをリハビリやトレーニングに回し、食生活も見直して半年程で5kg程減量いたしました。

頸椎の痛みが悪化しないよう稽古回数は週1〜2回のペースながら、審査では遠出を解禁し、2025年5月の名古屋／11月の東京の審査は不合格も、2026年2月の山梨の審査で合格できました。

実は審査当日にお相手となる方に挨拶したところ、一人目がここ数年稽古すらしたこともない二刀でした。

「参ったな・不運だな…」と思いながらも、いざ立ち会ってみると自然に対応でき、攻め続けて後半に相手の居付きを面にとらえました。二人目には初太刀で出小手が決まり、残り時間は手数を抑えて攻めを続けました。

相手に打たれませんでした。こちらが打った本数も覚えているのは二人に各一本ずつと少ないため手応えが薄かったのですが、結果は合格でしたので「攻めの大事さ」を改めて感じております。

また、二刀に上手く対処できたのは、大学時代の剣道部長の伊能先生をはじめ、旧制の先輩方の多くの二刀を見慣れていたお陰と思っております。『武蔵大学剣道部出身で良かった！』

今後は体調と相談しながら「週1〜2回」の稽古ペースを維持し、実は未取得の『剣士』『教士』に向けて精進を重ねてまいります。

最後に、今までご指導いただいた先生方、共に稽古に励んだ剣友の皆様へ深く感謝申し上げます。

六段昇段に思う

中村亮太（平成23年卒）



この度、六段に合格させていただいたことをご報告申し上げます。

振り返れば、大学剣道部時代から素晴らしい先輩方に稽古を付けていただきながらも、己の実力不足から六度目の挑戦でようやく合格をいただきました。

これまでは「何となく打つ」「タイミングを外して当てる」といった、当てっく剣道をしていたように思います。

しかし、今回の挑戦を通じて「相手を崩して打つ」「引き出して打つ」ことの重要性に改めて気づかされました。

初めて剣道に対して向き合い、深く考えることができた気がいたします。

合格してからも剣道の奥深さに、わからないことの多さに気付くことがあり悩むことはありますが以前よりも剣道が楽しく感じられてなりません。

先輩方におかれましては、今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

また、剣友会の会員として武蔵大学剣道部および剣友会の発展に微力ながら貢献していく所存です。

六段昇段について

保澤厚仁（平成25年卒）



2年10ヶ月、苦難の末に2024年2月18日、長野にて六段に昇段することができました。

六段に挑戦している期間は何回も落ちる度に剣道が嫌になり辞めようと思いましたが、理由を付けて審査を受けなかったこともありました。それでも諦めずに六段審査に挑戦を続けられたのは多くの方の支えがあったからだと思います。武蔵大学剣道部が大事にしている「剣縁」のおかげです。

今回こういう機会を頂いたので、自分が六段審査に頑張ることができた話を書かせていただきます。

私が審査に何回も落ちていて、自分の剣道に物凄く嫌気がさしている時期に、職場で尊敬している先生から「段審査に落ちることは剣道の勉強が出来るということだから、今は勉強していると思い、頑張りなさい。」とアドバイスを頂きました。

私はアドバイスを頂く前は六段審査に受かるための剣道をしてきました。先生は私のそういう剣道の姿勢に対して、「段が全てではなく、自分の剣道を磨くことが大事だよ」ということを伝えたかったのだと思います。私はそこから剣道に取り組み方を変えました。

私は運が良く稽古する環境に恵まれており、八段の先生方や国士館などの強豪出身で年齢に近い方と稽古させていただける機会があり、その中で先生方が意識している攻め方や打ち方などを観察して自分の剣道に取り入れていきました。

また、剣道の師匠にも恵まれ、切り返しなどの基本技から攻め方など色々なことを教えて頂きました。

幸運な事に私よりも先に1発で六段に受かり、来年に七段の挑戦を控えている剣道の強者である妻と結婚できた事で質の良い自主練を積むことができました。

今思うと六段に合格できた要因としては剣道の取り組みを変えたことが大きかったと思います。

現在、六段に昇段してから、1年が経ちます。今でも自分の剣道を良くするために色々と創意工夫をしています。昇段をした瞬間に稽古に来なくなるや、剣道論を語るような人が嫌で自分もそういうふうにならないように稽古の回数・質を落とさぬようにし、語ってしまう性分なので、自分自身にそこまでの剣道ではないのと言い聞かせて剣道を語るようなことがないように気を付けています。

まだまだ、目指すべき剣道像には程遠いですが、これからも稽古を積んで頑張っていきたいです。今後もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

山田正巳兄（昭和44年卒）を憶う



エピソードの少ない男だった。
人よりも一歩下がっていて、自分を前に押し出すことはしなかった。
しかし、やるだけのことはやった。
剣道も初心者であったが、卒業までに三段をちゃんと取っている。
それも彼にとっては人に示すものではなくて、自分の努力の結果として受け取っていたのだろう。
口数は少なかったが会話の無かった訳ではない。

社会に入ってからだが、親からの相続税の為に大変な目にあったらしい。が、困っているとは云っても苦しんでいるとは云わなかった。話すことで心のしこりは減らせても、心配をかけるのは人に負担を感じさせるだけだと思っていたのだろう。解決は、自分と奥さんでしたらしい。

八、九年前に彼は病に倒れた。感染症に罹る恐れで人込みの中へ出られなくなり、以来、自宅療養の身となった。我々同期が電話で近況を尋ねても、「大丈夫、悪くない」とか、「時間を見て散歩には出かけられる様になった」とか云って安心させていた。

その彼は逝った。

葬儀は樹木葬で、自宅に仏壇も置かないと云う。死後、続くであろう仏事に家族を煩わせたくなかったのではなかろうか。勿論、彼の死生観はあっただろう。それがどんなものであったか、見解を交わしたくとも適わない。

ただ、最後には強い自己主張をしていたものだと思う。

「山田、安らかに眠ってください。」と、云っても余計なことか。さようなら。

昭和44年卒 石井経剛

訃報



緑川毅重先輩（昭和42年卒81歳）が、2025年11月11日（火）18時30分にご逝去されました。緑川先輩におかれましては、昭和45年から5年間大学剣道部の監督としてご指導され、ご在任期間中、四大戦男女の団体及び新人戦の優勝、東都大会の優勝等輝かしい実績を残されました。

ご生前、剣道部の発展に尽くされたご功績と、長年にわたる剣友会活動へのお力添えに、敬意と感謝の念を捧げさせていただくとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

武蔵大学剣友会幹事長 桑原則行

ご挨拶（剣友会活動の年度末にあたり）

剣友会会長 菅田雅人

剣友会会員の皆様、今年度も剣友会活動に多大なるご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。お陰様で、現役学生の皆さん、指導陣の皆さんと力を合わせ、計画した剣友会行事を無事に実施することができました。ここに厚く御礼申し上げます。

4月25日（日）に開催されました創部65周年記念懇親会には、多くの先輩方にご出席いただき、盛会のうちに終えることができました。また、全国各地の先輩方より温かいご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。出席者全員で新入生を歓迎し、剣道部の活躍を激励する貴重な機会にもなりました。

さて、今日まで武蔵大学剣道部と剣友会が存続し続けることができたのは、いくつもの「奇跡」が重なった結果であると感じています。なかでも、武蔵大学剣道部誕生の時期に、旧制武蔵高校剣道部の先輩方との出会いがなければ、現在の剣道部・剣友会の姿はなかったと言っても過言ではありません。旧制武蔵高校剣道部は、昭和15年（1940年）のインターハイで全国優勝を果たすなど、戦前的高校剣道界を代表する名門でした。

一つ目の奇跡は、新制武蔵大学剣道部の一期生として長谷川勲先輩がいらしたことです。長谷川先輩は剣道部を創設されただけでなく、新制大学と旧制高校の剣縁を結ぶ架け橋となってくださいました。

二つ目の奇跡は、旧制武蔵高校剣道部ご出身の伊能敬先生が、武蔵高校・武蔵大学で教壇に立っておられたことです。初代剣道部部长として、伊能先生もまた、新制大学と旧制高校の剣縁を強く結んでくださいました。

三つ目の奇跡は、旧制武蔵高校剣道部OBである景山二郎先輩が、初代剣道部師範・関根日吉先生をお招きくださったことです。旧制高校の先輩方が「礼節と和」の精神を重んじられた関根先生をお迎えし、剣道部は盤石な基盤を築くことができました。

そして四つ目の奇跡は、誕生したばかりの剣道部に、旧制高校剣道部の先輩方が「応援したくなる」と感じるような部員が、全国各地から次々と集まったことです。旧制の先輩方は、日曜稽古などを通して触れ合った新制剣道部の先輩方の姿を見て、「この後輩たちを応援しよう」と思ってくださったのではないのでしょうか。

創部間もない新制武蔵大学剣道部には、まだ先輩がいませんでした。その若い部を温かく導いてくださったのが、旧制武蔵高校剣道部をご卒業された先輩方でした。戦後復興に尽力された先輩方の生き方、背中に憧れ、「自分もあのような人物になりたい」と願ったことが、今日まで受け継がれる武蔵大学剣道部の原点であると思います。その精神は、部訓「剣縁」として今も息づいています。

そして現在に至るまで、数多くの「奇跡の剣縁」が脈々と受け継がれ、今日の武蔵大学剣道部、そして剣友会が存在しているのだと思います。こうした歴史を振り返ると、剣友会とは昔も今も、「応援したくなる人」と「応援しようと思う人」とが会う場であると強く感じます。

奇跡の剣縁で結ばれた者同士が出会い、お互いの夢を応援し合い、幸せを願い合えるような剣友会を今後も目指して活動してまいります。皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和8年6月吉日